

平成19年度農林水産大臣賞

『稲沢地区地域づくり協議会』 福島県本宮市

【位置】



【むらづくりの経緯・動機等】

・稲沢地区は、かつて養蚕業が盛んだったが、その衰退により人口が流出し、高齢化や桑園を中心とした遊休農地の増加が進み、地域農業の存続が危ぶまれる状況となった。

・リーダーの不在や地域を統括する組織がないことから、住民参加型の地域活性化組織を立ち上げようという声が高まった。

・協議会の設立に向け、一つ一つ問題を解消しながら合意形成を図り、住民全体が参加できる環境づく

りを進めた結果、「稲沢地区地域づくり協議会」設立が実現した。

【推進体制】

・「自分達の地域は自分達の手で住みよくなる」ことを目標に、地区全戸参加の協議会を設立し、総会の決議を実行する運営委員会を置く。

・その具体的活動に向け、「企画開発部会」と「環境整備部会」を設置する。住民がそのいずれかに参加し、地域行事の企画や環境美化活動等を全体で取り組んでいる。

・運営委員に地域の農業委員が加わり、農地の使用収益権の調整等積極的に遊休農地対策に取り組む。

【地区の概要】

項目	内容	
規模	大字単位	(7集落)
性格	平地農業地域	
農家率 (内訳)	総世帯数	73 % 209 戸
	農家数	153 戸
販売農家数 (内訳)	専業農家	118 戸 5 戸
	I兼農家	11 戸
	II兼農家	102 戸
主要作物 (産出額)	水稻	65 (百万円)
	長芋	37 (百万円)
	さやいんげん	11 (百万円)
農用地の状況 (内訳)	耕地計	115 ha
	田	76 ha
	畑	36 ha
	樹園地	— ha
	牧草地	3 ha
	耕地率	44.8 %
	1戸あたり面積	0.7 ha

【生産面への寄与状況】

・遊休農地解消が地域農業の振興と活性化に直結すると考え、従来から栽培している長芋を特産品にしようと栽培面積の拡大に取り組む。

・同時に、長芋を利用した商品の開発に取り組む。白沢長芋生産組合と共同開発した「しらさわとろろーめん」や「とろろ飴」の販売により、「生産」と「販売」を結びつけることを実現した。



長芋の収穫作業



長芋を利用した企画商品

・養蚕に代わる作物として「野菜」を推奨。施設園芸の可能な農家には「きゅうり」や「にら」を、露地栽培を志向する農家には「長芋」を奨励した。平成12年からは、直接支払制度を活用し、「トマト」や「いんげん」の栽培を展開。いずれも、着実に農業収入の増に結びついている。

・協議会設立で農家同士の会話が活発化し、認定農業者の増加

や担い手への農地集積が進んだ。

【生活・環境整備面への寄与状況】

・環境整備部会が中心となり、公民館の清掃や花いっぱい運動に取り組むとともに、定住環境の整備を目的に協定事項の制定、実施を促している。

・伝統芸能の田植え踊りは、イベントを通し活性化と継承を両立した。イベントには、地区内外から毎年千人以上の来場者があり、農産物販売など所得増にもつながっている。

・大学生との交流も推進し、農業体験等グリーンツーリズムへの取り組みや大学祭での農産物販売により、活性化と販売ルートの構築につながっている。



稲沢お田植え踊り